

平成24年度宮古群島病虫害発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	20	40	20
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	50	20	20

(平成24年11月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.7	22.0	17.8	131.3	101.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

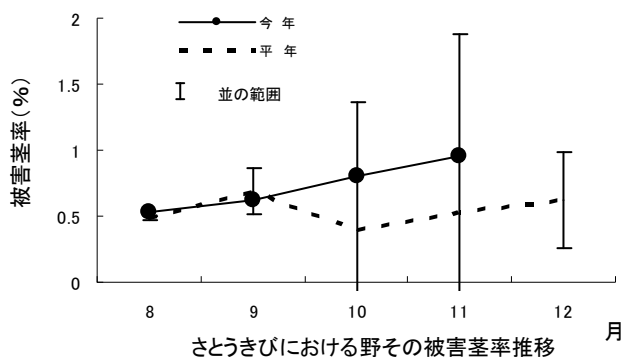
II 12月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

(1) 野そ

発生程度 : 並
予報の根拠

11月中旬の調査の結果、被害茎率は1.0%(前年0.5%、平年0.5%)と平年並であった。

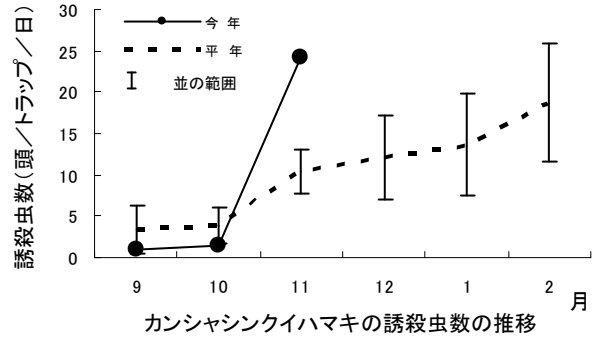
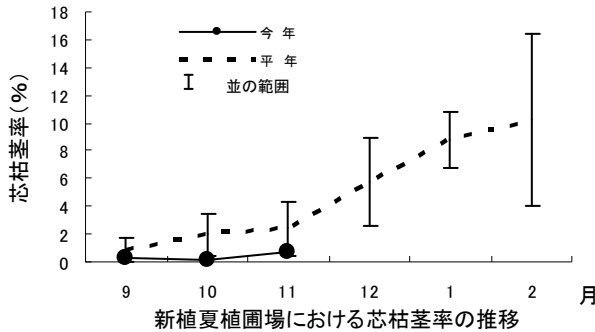


<防除上注意すべき事項>

- a 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- b 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- c 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.7%(前年3.3%、平年2.4%)と平年よりやや低かった。
 b 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は24.3頭(前年22.1頭、平年10.5頭)と平年より多かった。

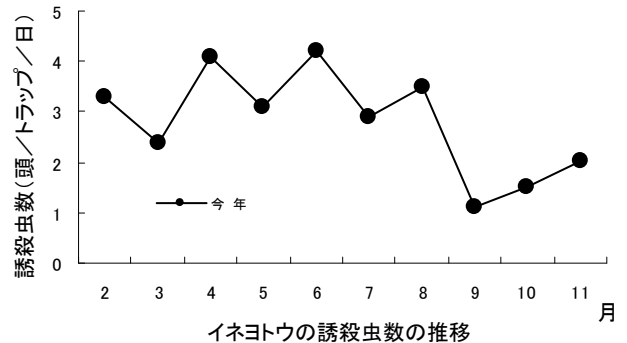
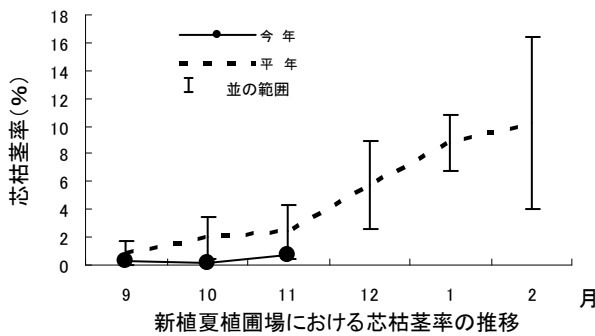


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
 b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
 c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
 d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
 e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.7%(前年3.3%、平年2.4%)と平年よりやや低かった。
 b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.0頭であった。
 c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
 b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

2 マンゴー

- 花芽分化期の病虫害防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、かいよう病およびチャノキイロアザミウマ、ハダニ類などの発生がみられた。
 - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の動向に注意し、防除を徹底する。
 - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
 - d 炭疽病、軸腐病及びかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - e 現在発生している不要な新梢は、病虫害の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

3 かぼちゃ

- モザイク病の防除対策
 - a 11月中旬の調査の結果、モザイク病の発生株率は、1.4%（前年7.0%、平年1.3%）と平年並であった。
 - b 発病した株は早期に抜き取り、処分する。
 - c 媒介虫であるアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去するとともに、薬剤防除を行う。
- 交配期から着果期にかけての病虫害防除対策
 - a 気象予報によると、向こう1か月の降雨量が多く、日照時間が少ないため、細菌性病害が発生しやすいと考えられるので、予防散布を行う。
 - b うどんこ病は着果期以降に増加しやすいので、防除対策を徹底する。
 - c ハモグリバエ類、アブラムシ類、タバココナジラミ等の害虫は、発生源となる圃場内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。

4 とうがん(施設)

- 交配期から収穫期にかけての病虫害防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でハモグリバエ類およびタバココナジラミの発生が確認された。
 - b 気象予報によると向こう1か月の降雨量が多く、日照時間が少ないため病害が増加すると考えられるので、予防散布及び着果期以降に不要な下葉を除去し透光通風をよくするなどの対策を徹底する。
 - c ミナミキイロアザミウマ、ハモグリバエ類、タバココナジラミ、ハダニ類等の害虫は、発生源となる施設内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。

5 ながうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でうどんこ病の発生が確認された。
 - b 気象予報によると、向こう1か月の降雨量が多く、日照時間が少ないため発生が助長されると考えられるので、粉剤などで予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。。
 - c ネット下の葉や老葉などを除去して透光通風をよくする。